

カルチャートーク

札幌市資料館 保存活用の変遷と 支える技術

「札幌軟石と左官と煉瓦」の視点より

2021. 3/6 土
13:30-16:30

札幌市資料館2F 研修室

地下鉄東西線「西11丁目」より徒歩5分
市電「中央区役所前」より徒歩6分

無料・先着40名



講演
60分

建物見学
30分

休憩
15分

ワークショップ
60分～

司法省設計により国内8か所に建設された控訴院(裁判所)建築のうち、僅かに遺るのは札幌と名古屋のみです。そのひとつ、札幌市資料館は、明治近代化を支えた建築資材「セメント」や「煉瓦」の出現、欧米に倣う建築技術やデザインの萌芽、竣工(大正12年)3年前に発生した関東大震災の教訓にもとづく耐震設計の試み等々の特徴を多く備えています。特に、大正から昭和初期に試みられた数々の建築技術開発のうち、顕著に技術革新が投入された「左官技術」の足跡を身近に体感できる建物としても貴重な建築遺構といえます。

本講座では、以上の建築的特徴の紹介に加え、少なくなりつつある「左官職人」2名をお招きし、参加者の皆さんと一緒に往時の左官技術体験やさまざまな左官道具・材料に触れるワークショップも企画しています。

講師

渡辺 一幸氏 《北海道ヘリテージマネジャー、建築ヘリテージサロン副代表》



1947(昭和22)年北海道札幌市生まれ。1972(昭和47)年、北海学園工学部建築学科卒業。総合建設コンサルタント会社(株)ドーコンに勤務のち、2004(平成16)年に北電総合設計(株)へ転職し、建築設計・地域計画(まちづくり)等に関わりながら、地域の歴史的資源(歴史的な景観や建造物)保存及び活用による地域再生プロジェクトや、活動組織の創設に参加。2015(平成28)年、日本遺産に関連し「全国北前船研究会」において北海道伝播の技術・物質の調査を行う。主な業務として「ザ・ウインザーホテル」、「Jリーグ 仙台スタジアム」の設計。「サハリン州郷土資料館」、「旧歌棄佐藤家漁場」など歴史的建造物調査に参加。現在は「伝統的建築技能継承集団建築ヘリテージサロン」設立などに関わる。

左官職人によるワークショップ

- ①洗い出しの実演&コースター制作(10名)
- ②人造石研ぎ出しの制作体験(10名)
- ③漆喰塗体験(5名以上)

※当日その場で希望者を募ります

講師(写真左から)



池上 宏則氏 《池上左官工業代表、札幌左官職業訓練協会会長》

石田 智志氏 《(株)鈴木工業所部長》

参加お申込み

電話・FAX・HP応募ボタンよりお申込みください。お申込み時の必要事項はイベント名、氏名(ふりがな)、住所、電話番号です。

●受付期間は2/11(木・祝)～3/4(木)9:00～17:00

●定員に達し次第締切

TEL 011-251-0731

FAX 011-271-5921

HP www.s-shiryokan.jp

ご来館の際はマスク着用等の感染症対策にご協力ください。また、本イベントは新型コロナウイルスの感染拡大状況により開催を延期または中止とする場合がございます。予めご了承ください。

主催・お問合せ:札幌市資料館(札幌市中央区大通西13丁目 011-251-0731)